

第52回 契約・調達管理会議 議事要旨

1 開催日時

令和8年2月26日（木曜日）16時00分から17時00分まで

2 開催場所

東京都庁第一本庁舎19階 19E 会議室（オンライン会議併用）

3 出席者

（1）委員（敬称略、五十音順、○委員長）

○鶴川 正樹 鶴川正樹公認会計士事務所／公認会計士
川口 貴史 公益財団法人東京2025世界陸上財団総務企画室財務部長（契約・調達課長事務取扱）
滝口 広子 北浜法律事務所・外国法共同事業／弁護士
三浦 大助 東京都スポーツ推進本部事業調整担当部長
森谷 真咲 公益財団法人日本陸上競技連盟事務局経営企画部管理課長

（2）事務局

東京都スポーツ推進本部

4 要旨

（1）開会

（2）議事（発言者の敬称略）

ア 世界陸上競技選手権大会に係る法律相談支援業務委託【資料1】

<説明・確認>

- （ア）本契約は、世界陸上財団解散後の清算手続等を円滑に実施するため、各種法令に基づく対応等について、法的な助言や情報提供等の支援を受けるために法律相談支援業務を委託するもの。
- （イ）現在契約している「世界陸上競技選手権大会の開催準備に係る法律相談等支援業務委託（単価契約）（長期継続契約）」に引き続くものであり、過去業務との一貫性・継続性を確保し、これまでの法的解釈や対応方針と整合性のある助言が求められるため、現契約の受託者と、特別契約を行う。
- （ウ）清算法人においては、債権申出公告期間中の債務弁済が原則禁止される。また、清算決了に向けて残余財産を引き渡すまでに、すべての債務弁済を完了する必要がある。これらの制限を踏まえて、本委託においては、債権申出公告期間中の支払いを猶予す

る規定を設けるとともに、4・5月分は単価契約による実績払いを、履行完了前の先払いが必要となる6～8月分については、総価契約による先払いを行うものとする。

<質疑・意見など>

滝 口：4・5月の単価契約の数量設定について、想定時間数を超えるようなことがないか確認したい。また、契約期間について、清算スケジュール上、余裕をみた期間設定となっているという理解でよいか。

担当者：単価契約の数量については、これまでの実績を参考に、適切な設定を行っている。また、契約期間についても、清算終了に向けたスケジュールを踏まえて余裕をもった期間設定をしている。

(3) 国際放送制作に係る負担金の支払いについて【資料2】

<説明・確認>

(ア) WAが国際放送制作に係る負担金の内容・規模などを具体的に示し、財団に提示することをWAと財団との間で約束し、財団として、人件費や機材費の単価等の妥当性を検証(2024年9月、2025年3月、同年8月)。

(イ) 今般、大会終了後、WAから国際放送制作に係る費用の実績報告に関する資料の提出を受け、総額1,200万米ドルの費用が支出されたことを確認

(ウ) 前回の検証から、大きな差異はなく、金額の妥当性が確認できたため、既支払済の負担金1,200万米ドルについては、費用精算を行わない。

<質疑・意見など>

滝 口：検証の資料に基づいて財団でもしっかりと内容をチェックでき、金額面でも問題がないことが分かり良かった。

鵜 川：機材費は、購入代金かリース・レンタル料金だったか。また、購入した機材は先方に渡し切りになるのか。

担当者：機材の種類ごとに調達形態は異なるが、通関書類等により、金額の妥当性を確認している。購入機材は渡し切りになる。

鵜 川：人件費について、日本より海外の方が賃金が高いが、WA側から何か異論はでないか。

担当者：当初定めた1,200万米ドルの支払いで合意している。

(4) 財産処分確認表【資料3】

<説明・確認>

- ・大会中の使用による破損等により譲渡不可能となった物品が一部生じたことから当該譲渡数の減少を反映し、資料を最終実績に更新。

<質疑・意見など>

特になし

(5) 委員長によるまとめ

・ 契約予定案件については、各委員の意見もふまえ契約手続きを進めていただきたい。

(6) 契約・調達管理会議全体に係る委員からのコメント

鵜 川：本会議は、ガバナンス強化及び運営ノウハウの内製化を目的として設置され、契約条件、費用対効果、法令遵守等について専門的かつ詳細な審議が行われ、有益な会議であったと考えている。また、公的資金等の適正な執行を確保するため、意思決定過程の透明化と説明責任の徹底を重視して運営されてきた。今後は、こうしたガバナンスの枠組や実務的な経験・知見を、他の国際スポーツ大会にも活用していくことが望ましい。併せて、世界陸上の観戦を通じ、スポーツが持つ価値や社会的意義について改めて印象深く感じるものがあったことを申し添える。

滝 口：本会議は、国際的なスポーツ大会におけるガバナンス確保の仕組みの一つとして機能しており、50回を超える会議を通じて丁寧な議論・審議が行われ、求められていた役割は十分果たされたと考えている。会議での議論が、今後の国際大会における対応を検討する際の基礎的なデータとして活用されることを願う。

森 谷：日本陸上競技連盟はこれから2025年の世界陸上を契機に、陸上競技のさらなる発展を目指している。本会議にご尽力いただいた委員の皆様には今後も引き続き陸上へのご協力の程お願いしたい。

三 浦：世界陸上が本会議により契約の妥当性を担保し、ガバナンスを確保したことが、東京2020大会以降初となる大規模国際大会の成功を支える大きな礎となった。また、今大会における取組は、今後の国際大会においても参考となる貴重なレガシーになると思っている。

川 口：本会議は約3年間・52回にわたり開催され、契約の適正性を担保するうえで、極めて重要な会議体であった。外部委員の適切な指導・助言を通じて、財団職員の契約に対する規範意識・問題意識の向上にもつながった。契約が適正に締結され、確実に履行されたことで、世界陸上は無事、成功裏に終えることができた。

(7) 閉会